

港湾整備事業

平成23年度			再評価									
事業名(箇所名)	国際物流ターミナル整備事業 (舞鶴港 和田地区)		担当課	港湾局計画課			事業主体	国土交通省 近畿地方整備局				
			担当課長名	松原 裕								
実施箇所	京都府舞鶴市											
該当基準	再評価実施後一定期間(3年間)が経過している事業											
主な事業の諸元	岸壁(水深14m)、泊地(水深14m)、道路、物揚場(水深4m)等											
事業期間	事業採択	平成1年度	完了	平成28年度								
総事業費(億円)	444		残事業費(億円)	73								
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存岸壁の水深不足、ふ頭用地の不足により、非効率な輸送形態を強いられている。 <p><達成すべき目標></p> <p>国際物流ターミナルを整備することにより、貨物の集約化及び船舶の大型化に対応することで輸送効率化を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①貨物の輸送の効率化 ②船舶の大型化への対応 ③大規模災害時における阪神港等の物流機能のリダンダンシーを確保 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標：国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化 ・施策目標：海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する 											
便益の主な根拠	<p>輸送コスト削減 (平成20年代後半予想取扱貨物量：25千TEU/年)</p> <p>輸送コスト削減 (平成20年代後半予想取扱貨物量：110千トン/年)</p>											
事業全体の投資効率性	基準年度			平成23年度								
	B:総便益(億円)	745		C:総費用(億円)	623		全体B/C	1.2	B-C	123	EIRR(%)	4.7
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	116		C:総費用(億円)	71		継続B/C	1.6				
感度分析				事業全体(B/C)			残事業(B/C)					
	需要(-10%~+10%)			1.1 ~			1.3			1.5 ~		1.8
	建設費(+10%~-10%)			1.2 ~			1.2			1.5 ~		1.8
	建設期間(+10%~-10%)			1.2 ~			1.2			1.6 ~		1.7
事業の効果等	<p>当該事業を実施することにより、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①物流機能が効率化され、輸送コストの削減が図られる。 ②船舶の大型化への対応し、輸送コストの削減が図られる。 ③大規模地震時において物流機能が維持され、輸送コストの増大を回避できる。 <p><貨幣換算が困難な効果等による評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流機能の効率化・高度化、国際競争力の強化 ・企業の進出等による生産拡大、雇用創出 ・排出ガスの減少 											
社会経済情勢等の変化	特になし。											
主な事業の進捗状況	総事業費444億円、既投資額371億円 平成23年度末現在 事業進捗率84%											
主な事業の進捗の見込み	事業が順調に進んだ場合には、平成20年代後半の完了を予定している。											
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・トンネル断面の見直しによるトンネル掘削費用を縮減 ・道路法面の斜面安定対策検討を実施することにより、切土費用、残土処分費用、用地費用の削減 											
対応方針	継続											
対応方針理由	効率的な事業の実施を図ることによって十分な事業の投資効果があると判断されるため。											
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>対応方針(原案)の通り「事業継続」でよいと判断。</p>											

舞鶴港 和田地区国際物流ターミナル整備事業

